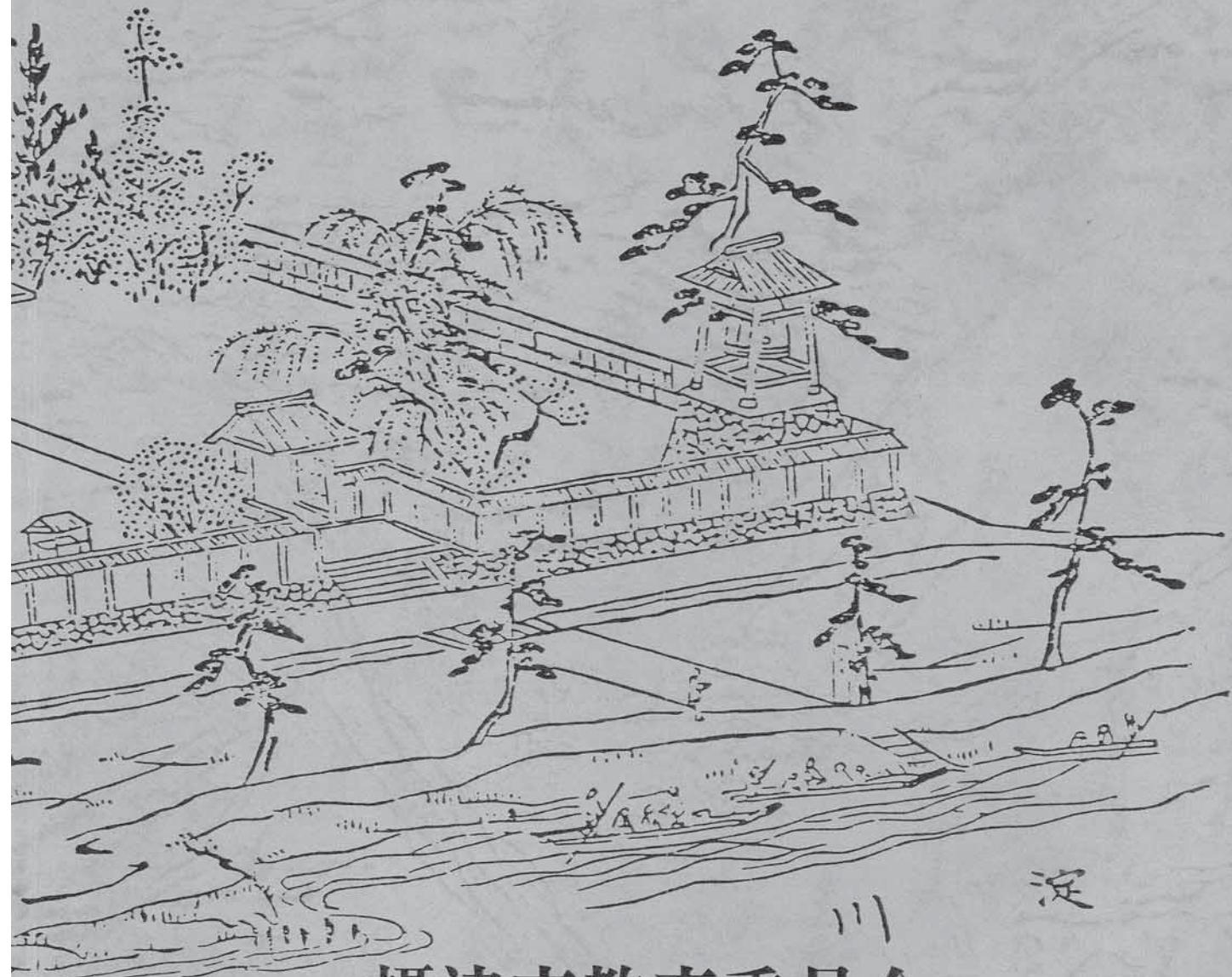


ふるさと摂津

神社・仏閣 編



川

淀

摂津市教育委員会

発刊によせて



私たちの「ふるさとせつ」は、豊かな水をたたえた淀川をはじめとする多くの河川の影響を受け、発展し栄えてきました。

私たちの今日ある暮らしは、先人のたゆまぬ努力の積み重ねであり、先人が遺した有形・無形の文化財を保護することは、重要な課題であります。

本市では、文化財に関する講習会をはじめ、史跡への石碑の建立、史跡めぐりの開催、並びに水のせせらぎと文化・歴史の調和をコンセプトにしたガランド水路親水事業の推進に取り組んでいるところでございます。

このような中、多くの関係者の皆様のご協力のもと、四季折々の祭りや儀式が行われ、日常生活の中でも様々な形で関わっております市内の神社・仏閣を調査整理し、広く紹介する運びとなりました。

市内には、遡ること千数百年も昔、飛鳥時代に祭られた古い神社や、今は廃寺となった寺院など、時の流れの中に位置した神社・仏閣が、先人の敬虔な信仰に支えられてきたことを知ることができます。

本冊子が、市民の皆様にとって、郷土摂津を再発見する一助となり、さらには郷土への理解を深め、郷土愛の醸成に寄与することとなれば幸いに存じます。

摂津市長 森川 薫

目 次

発刊によせて

摂津市の神社・仏閣の歴史	1
1. 須佐之男命神社	4
2. 味舌天満宮	6
3. 味府神社	8
4. 味生神社	10
5. 藤森神社	12
6. 八幡神社	14
7. 安樂寺	16
8. 専称寺	18
9. 金剛院	20
10. 勝久寺	22
11. 正覚寺	24
12. 永福寺	26
13. 慶徳寺	28
14. 明教寺	30
15. 明善寺	32
16. 常願寺	34
17. 阿弥陀寺	36
18. 誓源寺	38
19. 光蓮寺	40
20. 真福寺	42
21. 願正寺	44
22. 善勝寺	46
23. 妙楽寺	48
24. 安樂寺	50
25. 長音寺	52
26. 勝安寺	54
27. 誓覚寺	56
28. 西誓寺	58
29. 西方寺	60
30. 光明寺	62

摂津市の神社・仏閣の歴史

飛鳥時代の摂津市内では、別府地区に「宮の内」と呼ばれた所があり、この地に鰯生神社がありました。天照大神・若一王子・八幡大神を祭っていましたが、延暦4年（785年）の鰯生野開削工事により移転し、天照大神を別府の味府神社に、若一王子を一津屋の味生神社に、八幡大神を新在家の味生神社（八幡宮）にそれぞれ分祀して現在に至ったという所伝があります。

奈良時代の仏教は権力の側にたつ準官僚的な身分でした。そのなかにあって、官寺を脱し、説法と民衆救済の活動をはじめた行基は、政府の弾圧にも負けずに、民衆を動員して、道路・橋梁・池溝・布施屋の建設など多くの社会事業を行ないました。摂津市内では、蜂熊山蜂前寺、今は、廃寺となった宝光山常楽寺の二つが、行基の開基と伝承されています。

平安時代末期の世の乱れの後、新しい民衆仏教が発展してきました。法然による浄土宗、その弟子の親鸞による一向宗（浄土真宗）、一遍による時宗であり、栄西による臨済宗、道元による曹洞宗であり、また日蓮による日蓮宗、良忍による融通念佛宗がありました。念佛宗の良尊が正平2年（1347年）守口に来迎寺を創建し、浄土依準大念佛宗の本山としました。来迎寺は現在の守口市佐太に落ちつくまで、332年の間に26回も移動しています。村々を巡る間に道場を営み、各地に布教して行ったものです。いま、この地方の融通念佛の広がりの後を探ることはできませんが、蓮如の一向宗がこの地方に大いに教線を張ることができたのも、融通念佛による浄土教信仰が村々に広まった状況を基礎としていたことが考えられます。摂津市の鳥飼野々の真福寺は、現在は浄土宗ですが、江戸時代の記録によれば、大念佛宗として来迎寺とつながりを持った寺院であったことが知られています。民衆仏教の中でも、この地方でとくに顕著な動きを示してくるのが一向宗です。摂津市内の24カ寺のうち、20カ寺を占めています。本願寺8世蓮如は、寛正6年（1465年）京都東山の本願寺が叡山衆徒によって破却された同7年から同10年に山科の本願寺に移居するまでの3カ年の間、摂津・河内・和泉・大和・紀伊の教化を進めました。摂津市内における蓮如の教線の伸張は、明確にすることはできませんが、真宗寺院の寺伝でその開創を蓮如のときとするものがあります。真宗の寺々の多くは、名号あるいは絵像の阿弥陀如来を本尊として、民家で法義の寄合を開くという寺号のない道場の形態から出発するのが普通でした。また、当初から寺の形態として出発する場合は、他宗から転宗したものでした。さらに、蓮如のときには、真宗他派から本願寺へ帰入するものもでてくるようになりました。

江戸時代、幕府は支配体制をより強固なものにするため、封建制度のわく内に諸藩の大名から庶民に至までをしばりつけようとしましたが、とりわけ仏教に対しては強

い統制策がとられました。寛永12年（1635年）寺社奉行を置き、全国の寺社及び寺社領の行政司法、僧尼・神官・楽人・検校等の監督などをおこなっていましたが、具体的な政策としては新寺建立・新義・徒党の禁止、本末制の厳守、寺領売買質入の禁止等があり、これらはいずれも寺社奉行の設置に先立って、家康晩年のころには法度として明文化されました。仏教統制政策の中心の一つをなすものとして本末制度がありました。この制度が確立されたのは、幕府が全国的な本末寺帳の作成を行った寛永9年（1632年）と元禄5年（1692年）ころとされています。これは本山を頂点として、中本山・直末寺・孫末寺などの上下階層関係を形づくりました。摂津市内の真宗寺院の本末関係は、多くの寺が西本願寺の有力名跡である某坊の下寺として支配を受けていました。本末制度が、教団の組織内の統制機構であったのに対して、幕府・諸藩と各教団との行政的な連絡関係としては触頭制がありました。この機関は超地域的な結合とは異なり、地域的な結合関係をもつものでした。寛永17年（1640年）宗門改役が設置され、戸ごとの宗旨が調査されるようになりました。宗門改によって、全ての民衆は特定の寺院と結びつけられることになり、檀家制度が産まれることとなりました。檀家制度は単なる宗教的関係を越えた、近世民衆の生活基礎そのものにかかわるものとして定着していきました。本願寺の門徒を結集し、組織的な活動を推進させていたものに講の組織がありました。西本願寺は十二日講、東本願寺は九日講を組織した。十二日講は島上・島下両郡を毎月の12日に順番に巡行し、歴代法主の消息を読み、信心決意を新たにするものでした。

近世の神社も幕藩制支配下におかれていきました。一般的に浸透していた神祇崇拜の思潮を利用しつつ、敬神を奨励して民心の安定を図ったのです。民族宗教的性格を帶びた近世人の神信仰の普及は、諸国諸社の由緒・縁起、神徳・靈験などの考証を発達させました。現在摂津市内に存在する神社の多くは、こうした近世村民の神信仰の対象となったものであります。一般に、当時の村々には必ず一つ以上の神社があったと思われます。

明治になると、維新政府は、祭政一致の復古をはかるため、しばしば布告を発して神仏分離を徹底させました。明治4年（1871年）には、太政官布告をもって官社・諸社の区別と社格を定めるとともに、郷社定則を定めて府県社・郷社・村社の社格を公に規定しました。市内では鳥飼村の藤森神社が郷社と定められました。明治39年「神社寺院仏教堂合併跡地譲与ニ關スル件」の勅令がだされました。政府はこれを機に、積極的に神社合併を推進することになりました。摂津市内でも多くの神社が合併されました。

神社編

1. 須佐之男命神社

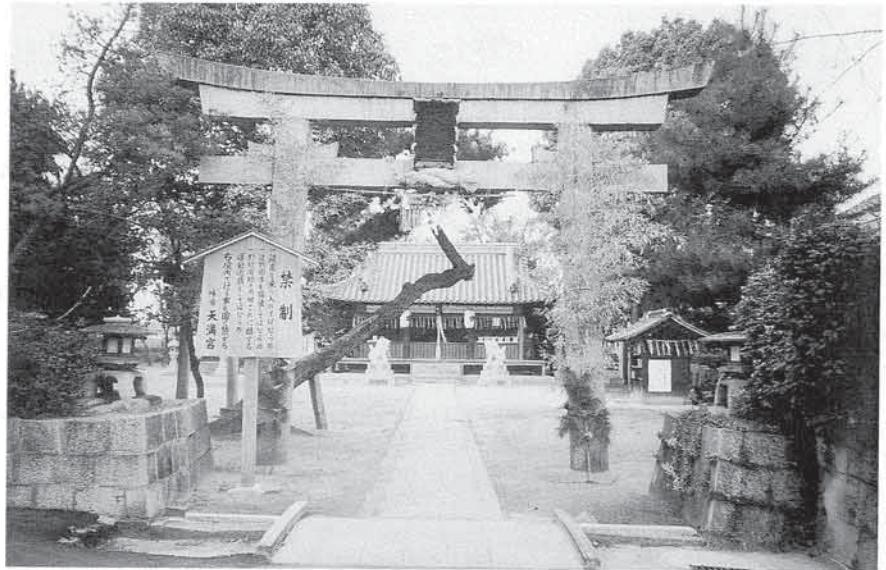
1. 名 称 須 佐 之 男 命 神 社
2. 所 在 地 千里丘3丁目15-15
3. 祭 神
須佐之男命
天兒屋根命
事代主命
4. 創立・沿革 創建の年代は詳かではないが、金剛院の別当社である年代が長く続き、明治の神仏分離まで金剛院住職が神事を執掌していた。坪井・味舌上・正音寺・庄屋四カ村の氏神であった。味舌町誌によると「本社は街道より北の山田村長野にあった寛永年中頃(1624年~1643年)、高貴な方の筆による社号の額面があったため、通行の諸大名は下乗して礼拝しなければならず、この面倒を避けるために旧社の東に当る現在の位置に移された。」
5. 建 物 本殿・太鼓堂・神輿堂・社務所
※境内神社 摂社・末社・地蔵尊
6. 行 事 元 旦 歳旦祭
1月10日 10日 戎
1月15日 とんど祭
2月3日 節分祭
7月15日 夏 祭
10月10日 秋 祭
12月31日 大 祢



▲神輿堂

2. 味舌天満宮

1. 名 称 味 舌 天 満 宮
ま し た てん まん ぐう
2. 所 在 地 三島3丁目9-3 電 話 06-382-1484
3. 祭 神 菅原道真・天照大神・天忍穗耳命・瓊々杵命
すがはらみちさね あまたらすおおみかみ あめのおしほみのみこと ににぎのみこと
うがやふきあえずのみこと あめのこやねのみこと
鶴葺草葺不合命・天児屋根命
4. 創立・沿革 「天満宮誌」によれば、後柏原天皇の時代、源の満仲の弟多田満政の九代の孫、摂津国止々呂美城主馬場兵衛信高の九代の孫の馬場当時郎尚久という者が、味舌郷の一邑を開拓し、ここにその氏神である八幡大神（誉田別尊）を勧請し、馬場宮と号したのが起源である。尚久三世の孫馬場尚次の時に淀川が氾濫して田畠が荒廃したので、尚次が荒田を修復している時、菅原道真の靈代を発見したので、これを奉じて馬場宮に合祀した。織田有楽斎の五男、大和国柳本藩主大和守尚長は味舌の地で誕生したため、寛永12年（1635年）現在の社殿を造営した。この時に八幡大神を本社から移して摂社とし、菅原大神を主祭神とするようになった。
5. 建 物 本殿・拝殿・牛舎・神饌所・神庫・手水所・社務所
※境内神社 摂社八幡神社・末社春日神社・末社稻荷神社
6. 行 事 元 旦 歳旦祭
1月15日 とんど祭
7月25日 菅公祭
9月15日 放生祭
10月16日 秋 祭
11月15日 七五三
12月31日 大 祓
7. そ の 他 平成5年11月24日、本殿と摂社八幡社が大阪府指定文化財に指定された。



▲大阪府指定文化財に指定されている摂社八幡社

3. 味府神社

1. 名 称

あじ ふ じん じや
味 府 神 社

2. 所 在 地

別府1丁目1-14 電 話 06-349-1539

3. 祭 神

あまでらすおおみかみ あめのこやねのみこと すがはらみちざね
天照大神・天児屋根命・菅原道真

4. 創立・沿革

当社は、もと宇宮内にあり、天照大神、若一王子、八幡大神を祀っていたが、延暦4年(785年)神崎川を改修するに及び、玉垣を分けて、天照大神を現在の処に祀り若一王子を字一津屋に、八幡大神を字新在家に移して三社となる。当社は即ちその一座であって、初めは鯉生の社号であったが、延元の頃に味府の文字に改められたと云う。天児屋根命と菅原大神は後の配祀である。明治5年村社に列し、大正元年11月神饌幣帛料供進社に指定された。

5. 建 物

本殿・手水所・社務所

※境内神社 八幡神社

6. 行 事

元 旦 歳旦祭

1月15日 とんど祭

2月3日 節 分

4月13日 春 祭

9月 210日祭、220日祭

10月13日 秋 祭

11月15日 七五三

12月31日 大 祢



▲祭 塚



4. 味生神社

1. 名 称

あじ ふ じん じや
味 生 神 社

2. 所 在 地

一津屋2丁目18-12 電 話 06-349-8721

3. 祭 神

すさのをのみこと あまでらすおおみかみ はちまんおおみかみ
素盞男命・天照大神・八幡大神

4. 創立・沿革

当社は、もと宇宮内にあり、天照大神、若一王子、八幡大神を祀り、鯉生宮と称した。創建年代は詳らかではないが、古くより在し、延暦4年（785年）神崎川を改修するに及び、玉垣を分けて、若一王子を現在の処に祀った。当社の地は、熊野詣の通路にあたり京よりの往来が多かった。慶応3年（1867年）に天照大神、素盞男命、八幡大神の三神を祀り、味生神社と称した。

5. 建 物

本殿・社務所・神器庫

※境内神社 豊受皇大神社

6. 行 事

元 旦 歳旦祭

1月15日 とんど祭

4月15日 春 祭

10月16日 秋 祭

12月31日 大 祢



▲唐破風式の屋根

5. 藤森神社

1. 名 称 ふじ もり じん じや
藤 森 神 社
2. 所 在 地 鳥飼西2丁目1－1 電 話 0726-54-5767
3. 祭 神 舎人親王・菅原道真とねりしんのう すがはらみちさね
4. 創立・沿革 京都藤森神社より、舎人親王の分霊をこの土地に勧請したものと伝えられ、社名もまた同社にちなんで名付けられたとされている。しかし、昔からしばしば水害をこうむり、社殿は度々こわれ、また宝庫も流れ去り、古記録類も消滅してしまったので、詳細を知ることができない。大字鳥飼上に鎮座していたのが、水害で現在の地に鎮座したと言い伝えられている。
5. 建 物 本殿・幣殿・拝殿・神楽殿・手洗舎・神庫・納屋・參集所・社務所
※境内神社 市杵島神社・国狭槌神社・稻荷神社
6. 行 事 元 旦 歳旦祭
1月15日 粥占い神事
1月15日 とんど祭
2月3日 鎮魂祭
10月18日 秋 祭
12月31日 大 祢

秋の例祭は村あげての大祭で、17日の宵宮の宮入り（ネリコミともいう）は早朝から各村の若中が献灯用の長提灯を村内に押し立て、夜7時ごろから各提灯に点火し村を出発する。途中は鉦・太鼓・伊勢音頭でにぎにぎしく練り歩き、村ごとに競いつつ前後して境内に担ぎ込む。9時半ごろには境内の所定の位置に長提灯を納め、献灯するのである。



▲鳥居前の並灯籠

6. 八幡神社

1. 名 称 八幡神社
はちまんじんしゃ
2. 所 在 地 新在家1丁目
3. 祭 神 八幡大神
はちまんおおみかみ
4. 創立・沿革 延暦4年(785年)神崎川を改修するにあたり、鯉生宮の玉垣を分けて、当社は八幡大神を祀った。明治43年に藤森神社に合祀され、昭和21年に神社設立登記を完了し、味生神社から八幡神社と改称した。
5. 建 物 本殿
6. 行 事 3月17日・18日 春 祭
10月17日・18日 秋 祭



仏閣編

7. 安樂寺

1. 名 称	すいがつさん あんらくじ 水月山 安樂寺
2. 所 在 地	千里丘5丁目13-20 電 話 06-388-8228
3. 宗 派	じようどしんしゅう ほんがんじは 淨土真宗 本願寺派
4. 本 尊	あみだにょらい 阿弥陀如来
5. 創立・沿革	天文13年(1544年)に本地の住人山田源之熙が高野山に登り、剃髪して門誉と法号し、弘治元年(1555年)帰村後一字を創立し、その後本願寺10世證如の直弟となり、真宗に転じた。
6. 建 物	本堂・庫裏・鐘楼・山門
7. 行 事	元旦 修正会 4月 永代経 10月 報恩講 12月 除夜会



▲真宗寺院としての原初的な形を残している内陣



8. 専称寺

1. 名 称	ていすいざん 濡水山 専称寺
2. 所 在 地	千里丘4丁目10-32 電 話 06-388-6402
3. 宗 派	じようどしんしゅう 浄土真宗 ほんごんじは 本願寺派
4. 本 尊	あみだにやらい 阿弥陀如来
5. 創立・沿革	元亀3年（1572年）、本願寺11世顕如の直弟正念が創立した。正念は以前、似禪寺山の西にある家敷山（現吹田市）に住居していたが、戦いに敗れ、本地竹之鼻の住人となった。
6. 建 物	本堂・庫裏
7. 行 事	元 旦 修正会 4月 永代経 10月 報恩講 毎月10日 法 座 毎月26日 写 経



▲創立以前にあった石の手水盤

9. 金剛院

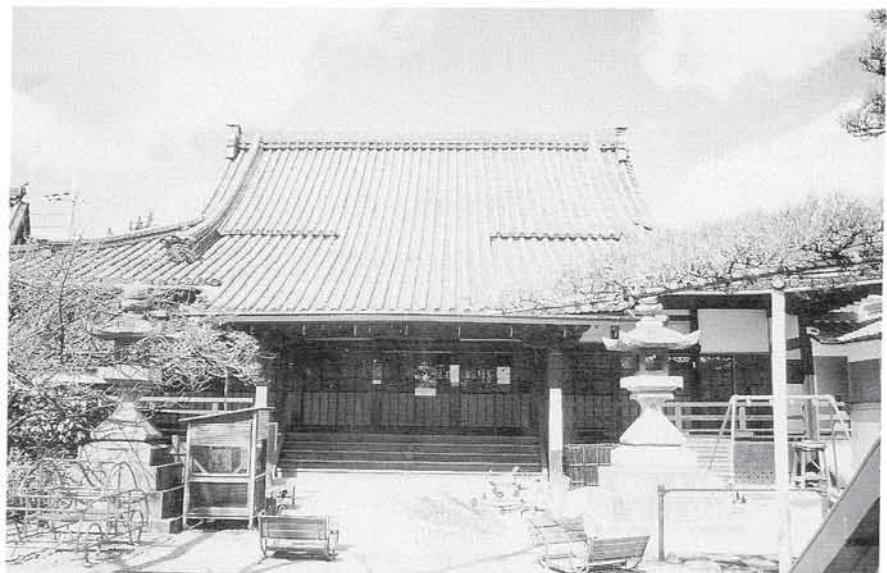
- | | | | |
|----------|---|--------------|---------------|
| 1. 名 称 | はちくまやま
蜂熊山 | ぶうぜんじ
蜂前寺 | こうごういん
金剛院 |
| 2. 所 在 地 | 千里丘3丁目10-5 電 話 06-389-3957 | | |
| 3. 宗 派 | こうやさんしんごんしゅう
高野山真言宗 | | |
| 4. 本 尊 | やくし よらい
薬師如来 | | |
| 5. 創立・沿革 | <p>寺伝によると、天平10年（738年）、一老翁が遊歴の僧行基に珍菓を供しながら、「この地は靈地なり一寺の建立を乞う」といい、消え去ったという。行基は薬師如来を刻み本尊となし、放光山味舌寺と名付けた。その後、鎌倉時代の初頭、この地に賊徒が蜂起し、官軍はこれまでという時、本尊薬師如来に祈念したところ、群蜂出現して勝利を得たという。その折戦死した蜂を武具と共に埋め供養したのが「蜂塚」である。これより寺名を蜂熊山（靈峰山）蜂前寺金剛院と改められた。またその後、戦火に焼かれた伽藍は織田有楽斎所領の折り、再建され、7代目藩主織田豊前守輔宣殿の代によく往古の面影を取り戻したという。</p> <p>2代目藩主織田豊前守長定殿の再建した護摩堂に安置されている不動明王立像は昭和29年8月10日に大阪府重要美術品に指定されている。</p> | | |
| 6. 建 物 | 本殿・鐘楼・護摩堂・弁天堂・庫裏 | | |
| 7. 行 事 | <p>1月 初詣若水・震災供養「なまず祭」</p> <p>2月 初午法要・涅槃会・宗祖御影供修会</p> <p>3月 彼岸会・護摩供</p> <p>4月 「花まつり」・降誕会・施餓鬼会</p> <p>5月 宗祖降誕「青葉祭」</p> <p>8月 盂蘭盆会・地蔵盆会</p> <p>9月 弁天祭・彼岸会</p> <p>毎月 1日・15日 御縁日</p> <p>21日 御影供</p> | | |



▲大阪府重要美術品に指定されている不動明王立像

10. 勝久寺

1. 名 称	むりょうざん 無量山	しょうきゅうじ 勝久寺
2. 所 在 地	千里丘東3丁目4-5	電 話 0726-22-6070
3. 宗 派	じようどしんしゅう 浄土真宗	ほんがんじは 本願寺派
4. 本 尊	あみだにやらい 阿弥陀如来	
5. 創立・沿革		「勝久寺來由記」によれば、開基教願が本願寺7世在如の直弟として、宝徳2年（1450年）一字を造ったのが同寺の始まりという。文明年中には、本願寺8世蓮如が摂河布教の折り、同寺へ教化に立ち寄った。木仏の下付は慶長15年（1610年）西本願寺12世准如からなされたと「來由記」に記されている。
6. 建 物	本堂・庫裏・鐘楼・太鼓堂・山門	
7. 行 事	元 旦	修正会
	4月上旬	春季永代経法要
	4月中旬～5月中旬	春の垣内報恩講
	8月15日	歓喜会
	9月上旬	秋季永代経法要
	9月中旬～11月中旬	秋の垣内報恩講
	12月22・23日	報恩講
	12月31日	除夜会
	毎月 各地区毎に佛教婦人会座談会を執行	
8. そ の 他		天正8年（1580年）石山合戦に勝久寺住職頓恵は、摂津・河内・泉州の僧俗たちとともに石山本願寺にたてこもった。和睦が成立した後、勝久寺本堂で法要が営まれていた時、折しも大阪へ向かう信長の軍勢がここを攻め本堂を焼き、信徒を殺害した。



▲勝久古場略史の石碑

11. 正覚寺

- | | |
|----------|--|
| 1. 名 称 | じゅうこうざん しょうかくじ
十劫山 正覚寺 |
| 2. 所 在 地 | 千里丘東4丁目5-13 電 話 06-381-6260 |
| 3. 宗 派 | じよどしんしゅう ほんがんじは
浄土真宗 本願寺派 |
| 4. 本 尊 | あみだにやらい
阿弥陀如来 |
| 5. 創立・沿革 | 寛永9年（1632年）淨意の再建になる。
『末寺帳』にも木仏・寺号免許を寛永14年（1637年）としており同寺の来歴はさらにさかのぼることは明らかである。 |
| 6. 建 物 | 本堂・庫裏・鐘楼・土蔵 |
| 7. 行 事 | 修正会
永代經
報恩講
除夜会 |



▲土 藏

12. 永福寺

- | | |
|----------|--|
| 1. 名 称 | あじふさん ようふくじ
安治阜山 永福寺 |
| 2. 所 在 地 | 庄屋1丁目1-6 電 話 06-381-2730 |
| 3. 宗 派 | じよどしんしゅう ほんがんじは
浄土真宗 本願寺派 |
| 4. 本 尊 | あみだにやらい
阿弥陀如来 |
| 5. 創立・沿革 | 寺の前身は、860年代にさかのぼることができるが、当時は寺の形態はなかった。1300年代から真言宗の道場とし近隣の人々の信仰の中心であったと思われる。1560年代の永禄3年頃に親鸞上人開創の浄土真宗に、道場もろとも改宗し、「永禄」という年号の一字をとって、永福寺と称したと古文書は伝えている。当時住職第4世管哲法師が学僧であつたらしく宗義は勿論のこと、漢字、儒教にも通曉していたので遠近より向学心のある成人・青年が学習していた。現在の宇堂は300年余り前の第四代管哲時代に現在の門徒の先祖の懇念によるものと思われる。 |
| 6. 建 物 | 本堂・鐘楼・庫裏・経堂 |
| 7. 行 事 | 元 旦 修正会
3月24日・25日 永代経
10月19日・20日 報恩講
奇数月の第二日曜日に壮年会、婦人会例会 |



▲経堂

13. 慶徳寺

- | | |
|----------|--|
| 1. 名 称 | 蓮華山 慶徳寺 |
| 2. 所 在 地 | 東正雀14-6 電 話 06-382-0232 |
| 3. 宗 派 | 真宗 大谷派 |
| 4. 本 尊 | 阿弥陀如来 |
| 5. 創立・沿革 | 本寺の開基は「慶徳寺記録所」を見ると、本願寺10世証如より天文8年（1539年）淨法坊に本尊を下付され、道場としている。後、慶長18年（1613年）本願寺12世教如より、摂州広根村（現在川西市）の久右衛門にあてて寺号（慶徳寺）・木佛を下付されたものが、寛永19年（1642年）久右衛門が還俗したため、味舌村淨心坊へと譲り渡されたのであった。この淨心坊が味舌慶徳寺の4世である。 |
| 6. 建 物 | 本堂・鐘樓・庫裏 |
| 7. 行 事 | 元旦 修正会
4月 永代経
10月 報恩講
12月 除夜会 |



▲井関敬順師顕功碑

14. 明教寺

1. 名 称	かん き ざん みようきょうじ 歡喜山 明教寺									
2. 所 在 地	正雀3丁目17-35	電 話 06-381-4038								
3. 宗 派	じょうどしんしゅう ほんがんじは 浄土真宗 本願寺派									
4. 本 尊	あみだにやらい 阿弥陀如来									
5. 創立・沿革	<p>当地の住人定照が本願寺11世顕如の直弟となり、元亀3年(1572年)開創したとするが、詳細は明確に出来ない。『末寺帳』によれば、木仏の下付けは元禄13年(1705年)である。しかし、現蔵する七高僧像はいま少し古く、貞享5年(1688年)西本願寺14世寂如から下付されており、同寺はこの頃確立したことがわかる。天保7年(1836年)には堂の屋根をわら葺から瓦葺に改めている。昭和40年の山田川改修の時に現在の地に移る。</p>									
6. 建 物	本堂・庫裏・鐘楼									
7. 行 事	<table><tr><td>元 旦</td><td>修正会</td></tr><tr><td>4月24日・25日</td><td>永代経・蓮師会</td></tr><tr><td>10月19日・20日</td><td>報恩講</td></tr><tr><td>12月31日</td><td>除夜会</td></tr></table>		元 旦	修正会	4月24日・25日	永代経・蓮師会	10月19日・20日	報恩講	12月31日	除夜会
元 旦	修正会									
4月24日・25日	永代経・蓮師会									
10月19日・20日	報恩講									
12月31日	除夜会									



▲連如上人の宝物があることを示す石碑

15. 明善寺

- | | |
|----------|--|
| 1. 名 称 | つじもとざん みよぜんじ
辻本山 明善寺 |
| 2. 所 在 地 | 三島2丁目11-18 電 話 06-382-2118 |
| 3. 宗 派 | しんしゅう おおたには
真宗 大谷派 |
| 4. 本 尊 | あみだにょらい
阿弥陀如来 |
| 5. 創立・沿革 | 味舌天満宮を創始した馬場当次郎尚次が、実如に帰依し明善と改め、永正5年（1508年）当寺を創立した。元禄年中、五代玄受の時に再建した。寛保元年（1741年）までは定専坊の末寺であったが、同3年からは東本願寺の直末寺となった。寛政10年（1798年）の修復の際には、本堂のわら葺きを瓦葺きに改めている。 |
| 6. 建 物 | 本堂・庫裏 |
| 7. 行 事 | 元旦 修正会
5月 永代経
11月 報恩講 |



▲ 建立のお願いの版画

16. 常願寺

1. 名 称	濱塘山 常願寺
2. 所 在 地	別府1丁目6-10 電 話 06-349-8822
3. 宗 派	淨土真宗 本願寺派
4. 本 尊	阿彌陀如來
5. 創立・沿革	当地の住人円正というひとが、明暦2年（1656年）西本願寺13世良如の直弟となり、再興したものであるといわれている。一方「末寺帳」によれば、別府村惣道場看坊としてすでに慶安2年（1649年）に木仏が免許されていることから、その寺歴はさらにさかのぼることが考えられる。寺号免許は寛文8年（1668年）なされている。
6. 建 物	本堂・鐘樓・庫裏・山門
7. 行 事	元 旦 修正会 3月30日・31日 報恩講法要 5月22日 宗祖降誕会 5月23日 春季永代経 9月上旬 戦死者追弔会 門信徒物故弔会 9月14日 秋季永代経 12月31日 除夜会 毎月第1月曜日 婦人会定例 毎月第3日曜日 日曜学校 毎月20日 正信偈の勉強会



▲山 門

17. 阿弥陀寺

- | | | |
|----------|--|----------------|
| 1. 名 称 | しょりゆうざん
松 龍 山 | あみだじ
阿弥陀寺 |
| 2. 所 在 地 | 一津屋2丁目13-3 電 話 06-349-4666 | |
| 3. 宗 派 | じよどしんしゅう
淨土真宗 | ほんがんじは
本願寺派 |
| 4. 本 尊 | あみだによらい
阿弥陀如来 | |
| 5. 創立・沿革 | 当寺所蔵の道場由来諸書付覚帳によれば、本願寺10世 証如の直弟、了順が阿弥陀如来像を下付されて本堂とし、天文元年（1523年）に一津屋村惣道場 阿弥陀寺として始まった。延宝3年（1657年）に本願寺第14世 寂如により松龍山阿弥陀寺と公称することを許可された。 | |
| 6. 建 物 | 本堂・庫裏・山門 | |
| 7. 行 事 | 元 旦 元旦会
4月 永代経
8月 孟蘭盆会
9月 敬老会
11月22日・23日 報恩講
その他 不定期行事として、佛教婦人会・日曜学校等がある。 | |
| 8. そ の 他 | 霸王樹社歌人・関西霸王樹社歌人故寺西沖乃の歌碑がある。 | |



▲山号のいわれの松の木

18. 誓源寺

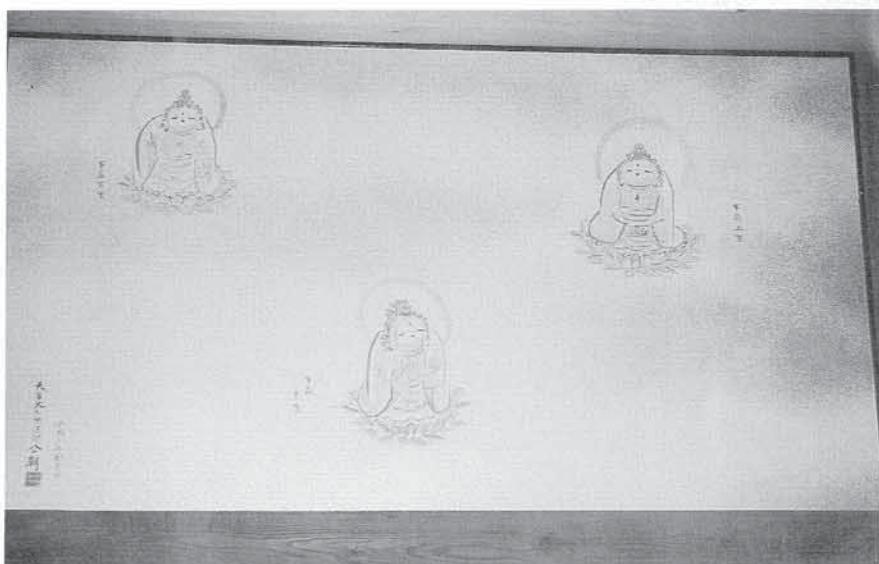
1. 名 称	清泰山 誓源寺
2. 所 在 地	一津屋1丁目6-3 電 話 06-340-7362
3. 宗 派	浄土真宗 本願寺派
4. 本 尊	阿弥陀如来
5. 創立・沿革	寺伝によると開基道翁なる人は豪農の百姓であり、鯉生野に居を定め、野口三郎治郎と称した。文明7年（1475年）本願寺8世蓮如が、大阪石山へと通行の折り、当寺開基三郎治郎が御文章を授かり直弟子となって、道場を開いた。当寺の由来に、元禄13年（1700年）6月、松平縫殿頭乗成が大阪城へ赴く途中息女の急死にあい当寺墓碑を建て菩提所として丁寧にとむらった。天明5年（1785年）松平下野守と松平兵部少輔が墓参した時、付近の田が一面に水をかぶっているのに不審をいただき、そのわけをただしたところ排水不良のためとわかり、幕府の許可をとって排水路（井路）を開削したので稲作が安定した。その喜びを後世に伝えるために4月15日を井路祭として年中行事として続いているのが春祭である。
6. 建 物	本堂・鐘楼・庫裏・山門
7. 行 事	元 旦 修正会 3月21日 彼岸会 報恩講 4月 8日 花祭 永代経 5月21日 降誕会 8月14日・15日 朝の法座 9月15日 彼岸会 永代経 12月 5日・6日 報恩講 12月31日 除夜会



▲宝歴2年(1752年)、松平家より寄進された鐘樓堂

19. 光蓮寺

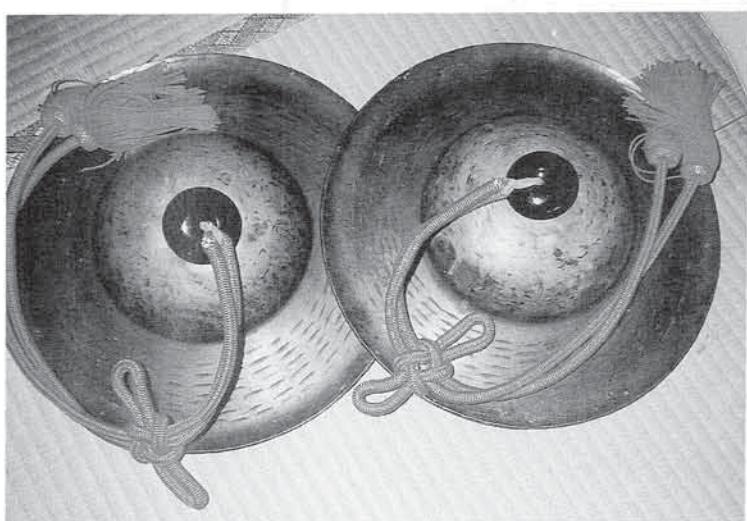
- | | |
|----------|---|
| 1. 名 称 | 照耀山 光蓮寺 |
| 2. 所 在 地 | 新在家1丁目6-23 電 話 06-349-3308 |
| 3. 宗 派 | 浄土真宗 本願寺派 |
| 4. 本 尊 | 阿弥陀如来 |
| 5. 創立・沿革 | 大阪府全志によると「淨専」という者が本願寺9世実如の直弟となり、永正3年（1506年）一字を造ったものであるという。同寺は、新在家村と鳥飼八防村との立合いの惣道場であって、延宝8年（1680年）木仏が下付けされている。 |
| 6. 建 物 | 本堂・庫裏・鐘楼・山門 |
| 7. 行 事 | 元 旦 修正会
3月下旬 永代経
9月中・下旬 永代経
12月13日・14日 報恩講
その他 不定期行事として、日曜学校（対象：小学校）、佛教婦人会・若妻会等がある。 |
| 8. そ の 他 | 昭和12年に鳥飼西700番地の水田を造成のために掘った際、壺形土器（弥生時代）が出土、光蓮寺に保存されている。 |



▲天台大仏師法印 西村公朝師の本堂内陣壁画

20. 真福寺

1. 名 称	ちゅうとうざん 中島山 真福寺
2. 所 在 地	鳥飼野々 1丁目11-13 電話 0726-54-5107
3. 宗 派	じょうどしゅう 浄土宗 鎮西派
4. 本 尊	あみだによらい 阿弥陀如来
5. 創立・沿革	大阪府全志によると、慶長13年(1608年)山本丹後守という者が陽光居士と法名し、等誉上人に帰依して創立したとするが、明和6年(1769年)の「寺社御改帳」では、大念佛宗来迎寺に属している。天保期ごろから庶民信仰の六斎念佛が盛んになり、その中心となつたが、後に来迎寺が浄土宗に改宗すると共に、浄土宗に移ることとなつた。
6. 建 物	本堂・庫裏
7. 行 事	元旦 修正会 2月 涅槃会 3月 彼岸会 4月 花まつり 8月 盆施餓鬼会 9月 彼岸会 10月 十夜法要



▲宝暦年間に造られ、法要に使用する鉦

21. 願正寺

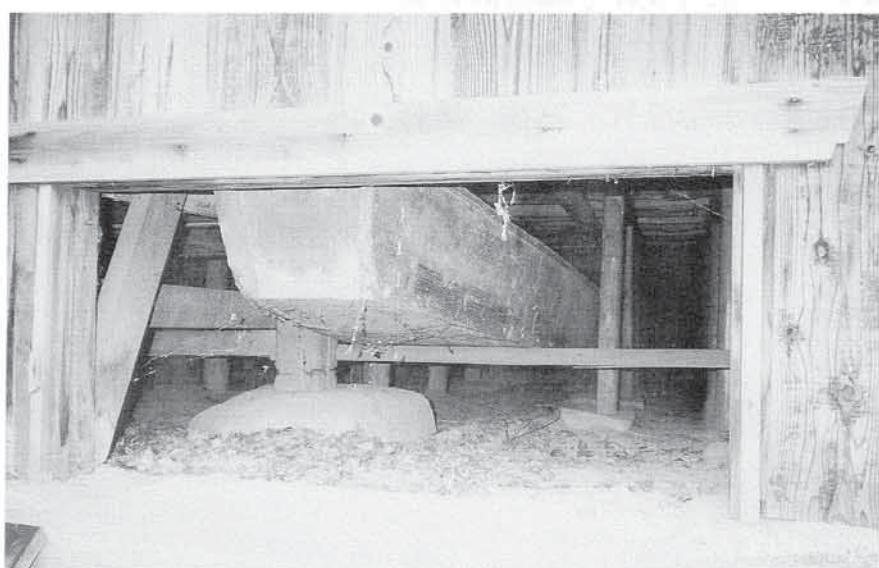
1. 名 称	とりかいさん 鳥養山 願正寺
2. 所 在 地	鳥飼西1丁目3-17 電 話 0726-54-5205
3. 宗 派	じよどしんしゅう 浄土真宗 本願寺派
4. 本 尊	あみだにやらい 阿弥陀如来
5. 創立・沿革	開基友尊は当地の住人で俗名を真好と称し「大阪府全志」によれば、同寺の草創を延徳2年（1490年）とする。寺号は「未寺帳」に「慶長旧御帳」と注記されているところから慶長期の未寺調査のころにはすでに願正寺と免許されていたことが知られる。宝永6年（1709年）8代淨行の時、門徒の協力により本堂が再建された。また、触頭制が導入されてからは願正寺も触口の一つであった。
6. 建 物	本堂・庫裏・鐘楼・山門
7. 行 事	元 旦 修正会 5月19日・20日 春季永代経 9月26日・27日 秋季永代経 11月17日・18日 報恩講 12月31日 除夜会



▲鐘 楼

22. 善勝寺

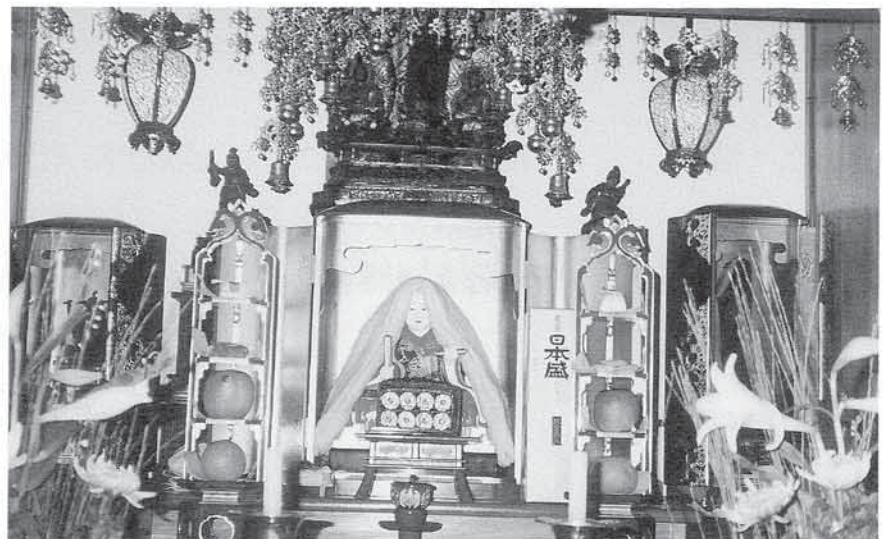
- | | |
|----------|---|
| 1. 名 称 | かんりゆうざん ぜんしょうじ
間柳山 善勝寺 |
| 2. 所 在 地 | 鳥飼下2丁目24-11 電 話 0726-54-5471 |
| 3. 宗 派 | しんしゅう おおたに は
真宗 大谷派 |
| 4. 本 尊 | あみだによらい
阿弥陀如来 |
| 5. 創立・沿革 | 天台・真言兼宗の寺庵であったが、文明9年（1477年）に22代恵現が本願寺蓮如に帰依し、空善と改めた。
明治7年には、本堂に鳥飼第一小学校が創立され、8年間続いた。 |
| 6. 建 物 | 本堂・庫裏・鐘楼・山門・蔵 |
| 7. 行 事 | 3月24日・25日 蓮如上人御祥月会並に永代経
8月27日・28日 宝物虫乾法要並に永代経
11月10日・11日 報恩講 |
| 8. そ の 他 | 宝物として蓮如が空善に下付したと伝えられる「紺紙金泥十字名号」「紺紙金泥六字名号」や室町時代中期の筆写と考えられる「御文」がある。 |



▲本堂の床下にある水害避難舟

23. 妙楽寺

- | | |
|----------|--|
| 1. 名 称 | しょうきゅうざん みょうらくじ
松久山 妙楽寺 |
| 2. 所 在 地 | 鳥飼下2丁目22-21 電 話 0726-54-5475 |
| 3. 宗 派 | にちれんしゅう
日蓮宗 |
| 4. 本 尊 | じゅつかいまんだら だいもくほうとう たほうぶつ しやかぶつ
十界曼陀羅・題目宝塔・多宝仏・釈迦佛 |
| 5. 創立・沿革 | 開山は真乗院日惣、口伝によれば、京都六本山本国の隠居寺(説教所)で、寛文年間(1661年~1672年)正光院日勇上人創立。大正7年の淀川の大洪水により文章等が流され、それ以前に無住の時代もあり、寺歴や開基年代も明らかでない。 |
| 6. 建 物 | 本堂・鐘楼・庫裏 |
| 7. 行 事 | 1月 年頭会・新年題目行互通会
3月 永代経並びに春季彼岸会
7月 土用写経・題目修行会
8月 孟蘭盆会施餓鬼法要
12月 大掃除行・除夜の鐘行
(行事のない月の月例信行会) |

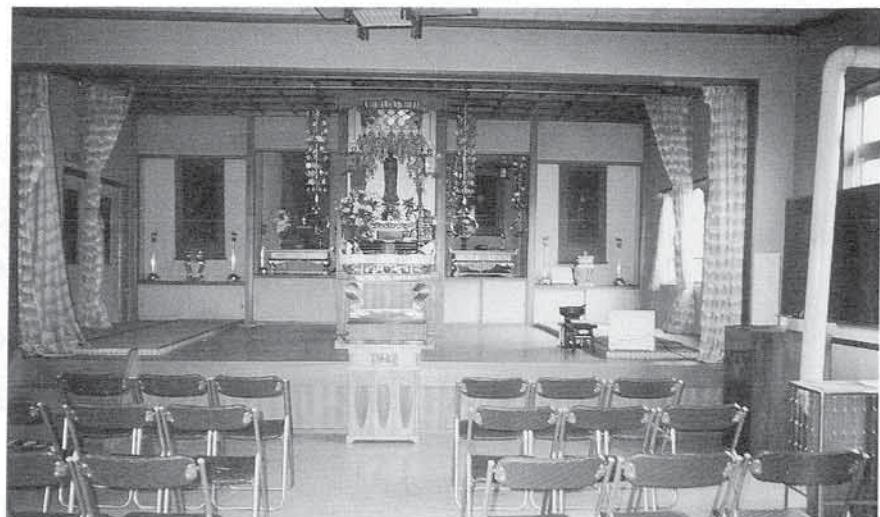


▲内陣



24. 安樂寺

- | | |
|----------|--|
| 1. 名 称 | 御牧山 安樂寺 |
| 2. 所 在 地 | 鳥飼下3丁目25-13 電 話 0726-54-5462 |
| 3. 宗 派 | 真宗 大谷派 |
| 4. 本 尊 | 阿弥陀如來 |
| 5. 創立・沿革 | 創立年代不詳だが、寛文10年（1633年）大暴風の為、倒壊し、住職11年、本堂を再建し、本尊を安置する。本寺はもと長福寺と言ったが、享保元年安樂寺と改称する。明和4年（1767年）失火のため本堂全焼した。明和5年（1768年）照應が讃岐国山田郡十河村より来て入寺する。同年堂宇を再建し、明和7年（1770年）本願寺派より転じて大谷派となる。 |
| 6. 建 物 | 本堂・庫裏・鐘樓 |
| 7. 行 事 | 元旦 修正会
6月 永代経
12月 報恩講
12月31日 除夜会 |



▲本堂の内陣と外陣



25. 長音寺

- | | |
|----------|--|
| 1. 名 称 | 梅松山 長音寺 |
| 2. 所 在 地 | 鳥飼中1丁目40-19 電 話 0726-54-5134 |
| 3. 宗 派 | 淨土宗 知恩院派 |
| 4. 本 尊 | 十一面觀音 |
| 5. 創立・沿革 | 天正5年（1577年）乗誉が再興した。昭和36年の淀川改修工事のため境内地は小さくなり、本堂・庫裏を改築した。本尊は、帆下の觀音と言われ、昔、淀川の堤に南面して本堂があったが、淀川を通う舟が、追い風に帆をはらませて来ても、この觀音堂の前まで來ると少しも進まないので、帆をおろして通りすぎたという。 |
| 6. 建 物 | 本堂・庫裏・地藏 |
| 7. 行 事 | 元旦 修正会
3月 彼岸会
8月23日・24日 地藏盆
9月 彼岸会
10月 十夜法要 |



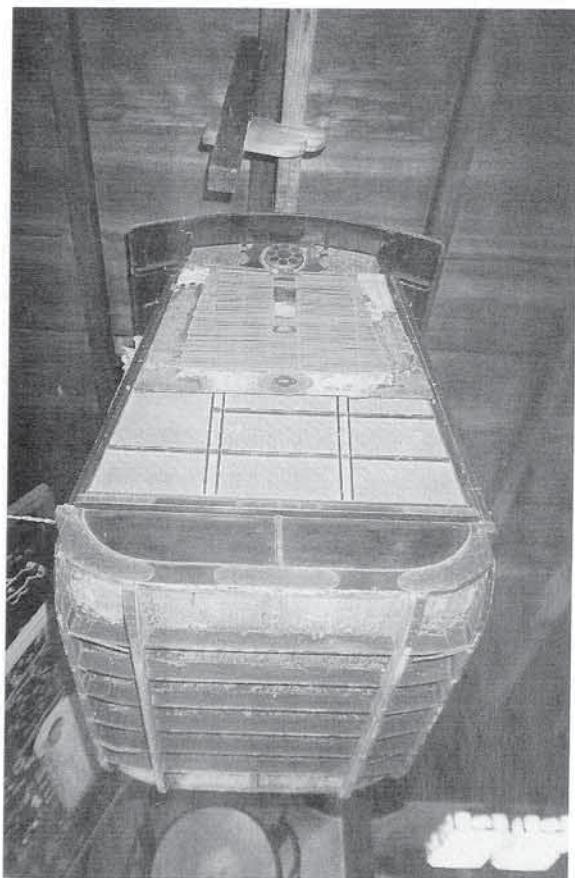
▲藥師如來像



▲十一面觀音像

26. 勝安寺

- | | |
|----------|--|
| 1. 名 称 | とうりんさん しょあんじ
桃林山 勝安寺 |
| 2. 所 在 地 | 鳥飼中1丁目19-8 電 話 0726-54-5094 |
| 3. 宗 派 | じよどしんしゅう ほんがんじは
浄土真宗 本願寺派 |
| 4. 本 尊 | あみだによらい
阿弥陀如来 |
| 5. 創立・沿革 | 勝安寺記録によれば、文亀元年（1501年）本願寺9世実如から方便法身尊像が開基正了に下付されたとし、さらに木仏は元和7年（1621年）に下されたとする。 |
| 6. 建 物 | 本堂・庫裏・鐘楼・蔵・山門・書院土蔵 |
| 7. 行 事 | 1月5日 仏教婦人会報恩講
5月初旬 永代経（2日間）
10月初旬 報恩講（2日間）
2月・3月・4月・6月・7月・8月・9月・11月・12月の各16日 定例（法座） |



▲江戸時代、本願寺訪問の際使用した籠

27. 誓覚寺

- | | |
|----------|---|
| 1. 名 称 | 法身山 誓覚寺 |
| 2. 所 在 地 | 鳥飼上1丁目13-27 電 話 0726-54-5677 |
| 3. 宗 派 | 浄土真宗 本願寺派 |
| 4. 本 尊 | 阿弥陀如来 |
| 5. 創立・沿革 | この地に住んでいた宮部五郎左エ門が本願寺8世蓮如に帰依し、明応3年（1494年）に創立。
明治7年には、本堂に鳥飼第2小学校が創立され、8年間つづいた。 |
| 6. 建 物 | 本 堂 明和4年（1767年）再建
鐘 樓
庫 裏 |
| 7. 行 事 | 1月4日 仏教婦人会新年会
5月 永代経執行
10月 報恩講執行 |



▲江戸時代、本願寺訪問の際使用した籠

28. 西誓寺

- | | |
|----------|--|
| 1. 名 称 | 法耀山 西誓寺 |
| 2. 所 在 地 | 鳥飼上1丁目19-33 電 話 0726-54-6409 |
| 3. 宗 派 | 浄土真宗 本願寺派 |
| 4. 本 尊 | 阿弥陀如来 |
| 5. 創立・沿革 | 元和9年（1623年）2月本願寺准如の直弟善好が創立。
木仏は寛文4年（1664年）、寺号は寛文7年（1667年）、共に善調の代に本山から下付された。 |
| 6. 建 物 | 本堂・庫裏・鐘楼・蔵・山門 |
| 7. 行 事 | 1月5日 仏教婦人会報恩講
5月初旬 永代経（2日間）
10月初旬 報恩講（2日間）
2月・3月・4月・6月・7月・8月・9月・11月・12月の各16日 定例（法座） |



▲本願寺から親鸞上人の御影(肖像)を
いただいた送り状



29. 西方寺

1. 名 称	いつこうざん さいほうじ 一光山 西方寺
2. 所 在 地	鳥飼八町1丁目7-5 電 話 0726-54-6932
3. 宗 派	しんしゅう おおたには 真宗 大谷派
4. 本 尊	あみだによらい 阿弥陀如来
5. 創立・沿革	大阪府全志によれば「文明年中に本願寺八世蓮如の絵図を受けた」という。近世に入って寛文10年（1670年）西本願寺14世寂如から木仏本尊・各号を下付けされ、安永元年（1772年）本堂が再建されたとする。
6. 建 物	本堂・庫裏・鐘楼・山門
7. 行 事	1月1日 元旦初詣厳修 3月 春の彼岸会 5月 永代経 8月 孟蘭盆会 9月 報恩講・尼講・秋の彼岸会 12月 除夜会



▲尼講に使用する巻物

30. 光明寺

1. 名 称 普照山 光明寺
2. 所 在 地 鳥飼野々 1丁目26-13
3. 宗 派 浄土真宗 本願寺派
4. 本 尊 阿弥陀如来
5. 創立・沿革 同寺の来歴を知る史料として木仏尊像の裏書を見ると、宝暦10年（1760年）西本願寺17世法如から同寺へ下付されたことがわかる。
6. 建 物 本堂、庫裏、門があつたが、昭和51年11月に火事になり消滅した。



▲寺 跡

あとがき

摂津市は、淀川の豊かな自然に育まれ、古くから農耕が盛んであった。農耕技術や生活文化の発展により、市内の神社や寺院では四季折々の祭や儀式が行われており、多くの市民の“心のふるさと”となっています。

本冊子は参考資料や聞きとり調査をもとに編集し、具体的な場所もわかるようにと地図も掲載いたしておりますので手引書としてご活用願います。

市内の神社や寺院を紹介することにより、多くの人々が“ふるさとせつ”を認識していただけたらと考えています。

最後に、編集に際し、資料を提供していただきました皆様に厚くお礼申し上げます。

摂津市教育委員会

ふるさと摂津

神社・仏閣編

平成7年3月初版

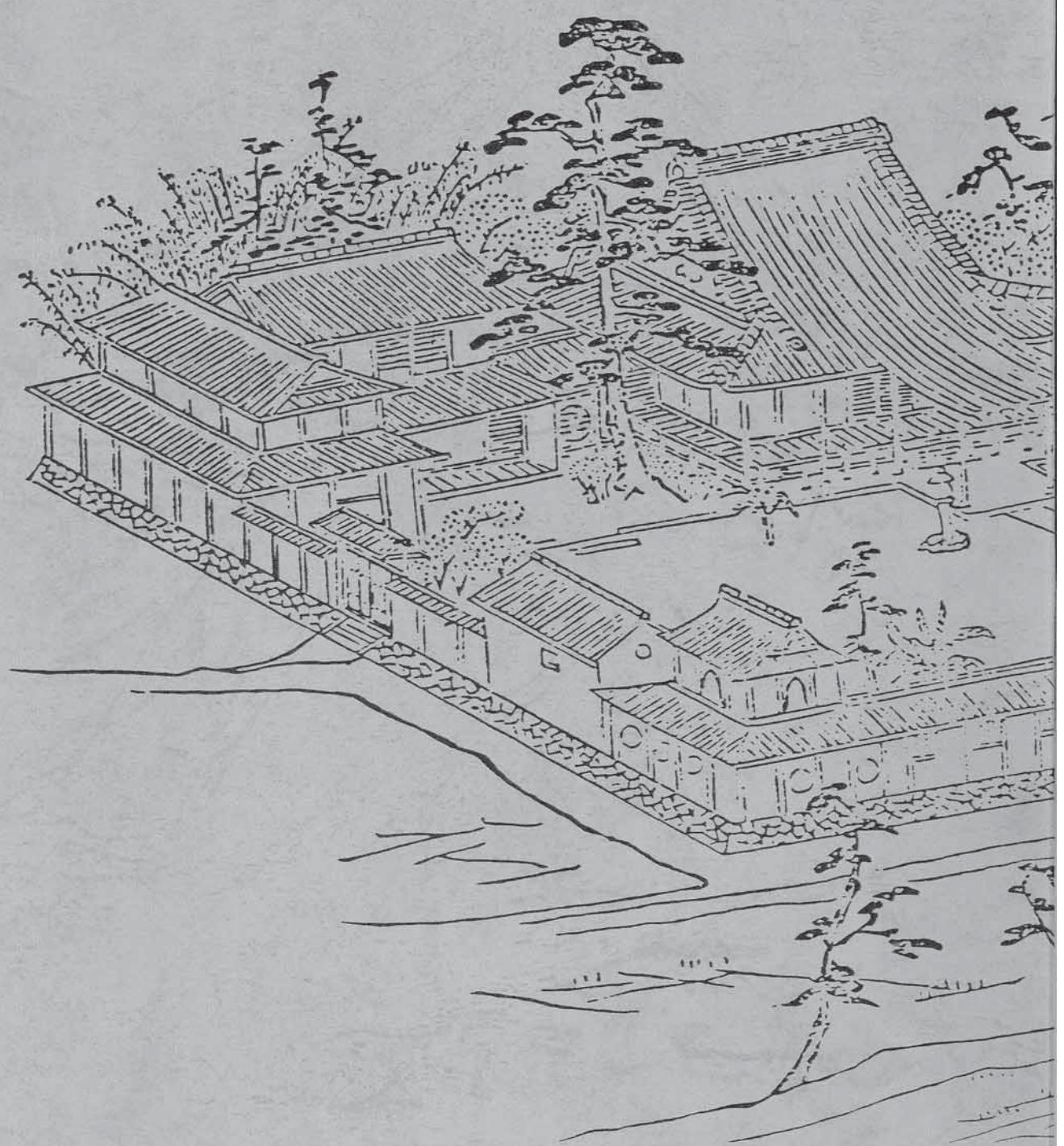
編集・発行 摂津市教育委員会 生涯学習部 生涯学習課

〒566 摂津市三島一丁目1番1号

電話 06(383)1111 0726(38)0007

印 刷 上田企画印刷

参考文献 大阪府全志 摂津市史 味舌町誌 鳥飼村誌



ふるさと摂津 神社・仏閣 編 略図

